



私にもできる!

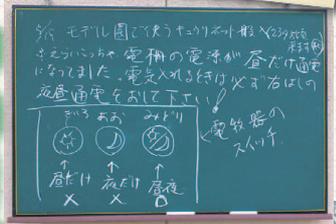
庄原市鳥獣害対策
パンフレット

獣害対策

獣害を引き起こす原因は、私たち自身による意図せざる「餌付け」でした!

ならば話は簡単です。

獣害対策なんて「餌付け」をさっさとやめるだけ!



「何をやるか」より「この順序が大事！」

① みんなで勉強

獣害が増える原因として誰もが思いつくのが、過疎・高齢化、人工林の増加、地球温暖化、狩猟者の減少。でも、これらは全部、原因なんかじゃないよ。ある集落で獣害が激化したとすれば、ズバリ、その集落のみんなで「餌付け」に成功しただけのこと。だから対策はとっても簡単。集落のみんなが原因を正しく知って、さっさと餌付けをやめたらいいだけですよ。

② 守れる集落・守れる畑

野生動物の「餌付け」に成功する条件をこうそり教えるよ。一、人慣れ学習、二、エサの準備。実はこの二つだけ。あなたの畑が獣害にあったということは、畑に二つの条件が揃っている証拠です。「せうかく出てきたのに何も食べられず、怖いところだった」。野生動物にそういう経験を積ませる畑こそ、「守れる畑」です。

③ 自分でやる囲いや追い払い

原因もわからないまま腹立ち紛れに始めると、どんな対策だって失敗しますよね。逆に、①番、②番と、順序を守ってやろうと思いなから対策はじめたら、①と②まででイノシシの来る回数が減ったりすることも多いんですよ。そうになると、③番目の「自分でやる囲いや追い払い」も効果てきめん。ここまで被害、どっかへ行ってしまふことも多いんですね。

④ 捕獲・大規模柵

④番目で、ようやく「自分でできない捕獲・大規模柵」ですよ。みんなここから始めてしまふから、失敗するんですよ。何十キロも鉄柵を張ったあげく、国道や川で途切れさせて、イノシシやシカを餌場まで誘導してあげたり、潜み場所をまるごと囲ってサファリパーク作っちゃった例、嫌というほど見えました。あっそうそう、①、②、③と対策を重ねた集落では、ワナの捕獲効率もムチャクチャ上がりますよ。



いのうえまさてる
お話し：井上雅央さん
(近畿中国四国農業研究センター専門員)

獣害に強い圃場の作り方

柵で囲っても被害が増える「守れない畑」と、努力が実る「守れる畑」があるんです。

「守れる畑」とは、「柵のある所なんて、行っても何も食えないや」というような柵が張れる、畑の周囲に余裕のある畑のこと。秘訣は、柵の内外両側に背筋を伸ばして歩ける「何も植えないゾーン」を作ることです。

豆知識①「守れない畑」と「守れる畑」

「守れない畑」っていうのは、こんな畑。まず、カキ、クリといった果樹が生い茂って、枝が畑の外にはみ出した畑。柵で囲っても、やって来た動物は柵の外側から餌にありつきましますね。次に、欲張って畦ぎりぎりまで畝たてをして、目いっぱい野菜を植えてしまった畑。これも、サルが手をさし入れたり、シカやイノシシが口を伸ばせば柵越しにミニトマトやサツマイモのツルにとどいてしましますね。これではせっかくの柵も「柵さえ探せば餌にありつける」っていう餌付け装置。柵が餌探しの目印になってしまいます。カボチャやスイカのツルを畑の外に伸ばすなんて論外ですよ。



何も植えないゾーン

「何も植えないゾーン」を作る

「畑の周囲に余裕がない場合、どうすれば良いの?」っていう方もご安心を。そのときは、畑の畦の内側に、1メートル以上の幅で「何も植えないゾーン」を作っておきましょう。

代わりに、狭くなった畑でも収量アップする方法、いろいろ紹介しちゃいます。

豆知識② 守れる野菜の植え付け方

まず、「何も植えないゾーン」のまん中に鉄柵や電柵を張ります。さらに内側に、十分な間をあけてウネ立て。一番外側の畝は、イノシシが好まないシンや唐がらしを植えると、中の作物が目隠しできて効果的。十分な間隔で苗を植えて、がっしりした野菜を作ると少ない日数で大きく育ち、獣害にも遭いにくくなります。

百歳まで楽しめる畑

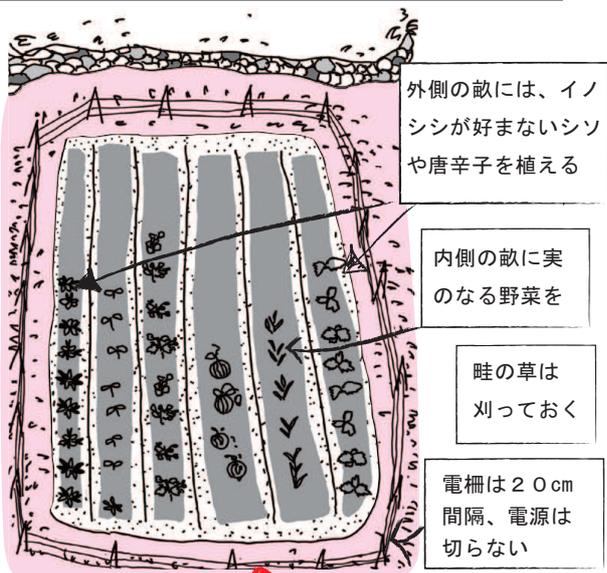
若い時だったら平気でまたいだり、しゃがんだりできていたことも、だんだん難しくなると、「畑に行くのがおっくうな日もあるでしょ。」

だったら、身の丈に合わせた環境に作り変えましょう。畑の役割はあなたなのですから。めざすは「百歳になっても行くのが楽しい畑」。

豆知識③ 柔軟に考えましょう

背の高いカキの木なんか、腰の高さまで切り詰めてしまっても、今まで以上に日光があたって、病害虫防除も楽になって、収量だって増えるんです。重たいスイカだって、立体栽培にすれば、立ったまま収穫できて、作業がとっても楽になりますよ。

大屋本谷の守れる畑 公開します!!



「何も植えないゾーン」